

概要

「玉島湊の茶室群」を持つての茶室群巡り、春に続いて秋のコースのご案内です。秋は、玉島湊の東側に位置する茶室を中心に巡ります。春の茶室群巡りは、初日から雨で心配しましたが、かえって庭の新緑が美しく映え、良かった面もありました。おおむね、どのコースも楽しんでいただけたようです。

秋は、色々なコースを用意致しました。足の悪い方、少しでも多くの茶室の見学を希望される方のために車で巡るコースも新設。また春のコースの昼食は、備後屋の懐石、子元のお弁当、お茶事とも好評でしたので、秋も同じものを用意します。どのコースもお茶席体験がありますが、茶道の心得のない方も大丈夫です。また、正座の出来ない方も椅子をご利用いただけます。

玉島の茶室は、それぞれ特徴があり魅力があります。歩くコースでは、昭和の面影が残る街並みを見ながら茶室を巡ります。途中にある菓子舗、茶舗、作り酒屋等々もご案内します。「玉島湊の茶室群」をご覧下され、見学コースをご検討の上お申し込み下さい。

希望者が5～10名程度集まり、かつ茶室の所有者の承諾があれば、随時対応させていただきます。

申込方法

1. 申込者氏名(全員の氏名)

1～6をご記入の上、

2. 申込者住所(代表者住所)

《ショートメール》090-5378-6675 《FAX》086-525-2389

3. 連絡先：携帯電話番号
(固定電話も可)

《郵送》〒713-8122 岡山県倉敷市玉島中央町 1-6-21 遊美工房 安原あて

4. 参加希望日

でお申し込み下さい。先着順に受け付けます。

お申し込み後、7日たっても受付済の連絡がない場合には、

電話(090-5378-6675)へお問い合わせ下さい。

5. 参加コース名

遊美工房横の駐車場は、10台程度止めることが出来ます。

ご利用の方はお申し込み時にお知らせ下さい。

A) 徒歩 4茶室(昼食付)

B) 徒歩 4茶室

C) 車利用 7茶室(昼食付)

D) 徒歩 4茶室(昼食付)

E) 車利用 3茶室(弁当付)

F) 徒歩 5茶室(お茶事付)

G) 徒歩 4茶室

6. 参加人数

〳 来年は、春のコース4月・5月を予定しています 〳



「玉島湊の茶室群」

建築史家(故)池田俊彦先生の残された玉島の茶室調査資料をまとめた本です。

この茶室巡りの茶室について詳しいことをお知りになりたい方は、各都道府県立図書館にある「玉島湊の茶室群」をご覧下さい。また、この本の購入をご希望される方は、chashitsugun.book@gmail.comへお名前、ご住所、連絡先電話番号を書いてお申し込み下さい。



(故)池田俊彦先生

〔著者略歴〕

池田俊彦 「イケダ数寄屋研究所」所長

1955年 兵庫県芦屋市生まれ

1979年 京都工芸繊維大学工芸学部建築工芸学科卒業
同大学院建築工芸学研究科で中村昌生教授に師事

1986年 福井工業大学建設工芸学科講師。

2001年 同大学助教授に就任。(2016年まで勤務)

2021年1月9日 没

2002～2006年 (財)京都伝統建築技術協会理事

2005～2021年 茶の湯文化学会理事

共著に『村野藤吾の造形意匠』(京都書院1994)

『国宝・重文の茶室』(世界文化社1997)

また、『茶道雑誌』(河原書店)、『淡交』(淡交社)に多くの著述を寄稿。

玉島湊の 茶室群巡り

主催：玉島茶室群研究会

令和7年 秋のコース

10月25日(土)・26日(日)

11月23日(日)

歩くコース

車で巡るコース

「玉島湊の茶室群」の本を持って茶室を巡ります

全コース 別途本代：税込 2,970円(すでにお買い求めの方は不要)

▼ 10月25日(土) A B C

〳 先着順 〳

A
コース
約3km

4茶室見学(林月亭・松風・樽の茶室・玉芳亭)

浅沼家 — 岡田家 — 県立玉島高校
— 子元(昼食) — 器楽堂老舗(茶席)

■ 10:00 集合 遊美工房
■ 14:30 解散予定 遊美工房
参加料 10,000円(見学科・昼食代・茶席代込)
*子元での昼食はお座敷でお弁当をいただきます。

5名募集

B
コース
約3km

4茶室見学(林月亭・松風・樽の茶室・玉芳亭)

浅沼家 — 岡田家 — 県立玉島高校
— 器楽堂老舗(茶席)

■ 09:30 集合 遊美工房
■ 13:00 解散予定 遊美工房
参加料 5,000円(見学科・茶席代込)

5名募集

C
コース

7茶室見学(石窓庵・友松亭・安藤家茶室・
滄浪亭・松風・樽の茶室・霧晴庵)

円通寺 — 安藤家 — 佐藤家 — 岡田家
— 備後屋(昼食) — 器楽堂老舗(茶席)

■ 09:00 集合 遊美工房
■ 15:00 解散予定 遊美工房
参加料 16,000円
(見学科・タクシー代・昼食代・茶席代込)
*備後屋から器楽堂老舗の間は歩き600mとなります。

4名募集

▼ 10月26日(日) D E

D
コース
約3km

4茶室見学(林月亭・松風・樽の茶室・玉芳亭)

浅沼家 — 岡田家 — 県立玉島高校
— 子元(昼食) — 器楽堂老舗(茶席)

■ 09:00 集合 遊美工房
■ 14:00 解散予定 遊美工房
参加料 10,000円(見学科・昼食代・茶席代込)
*子元での昼食は、お座敷でお弁当をいただきます。

5名募集

E
コース

真備町瀬崎家 3茶室見学

松籟亭・翠松楼・如是庵

*如是庵での茶席は今回が最後です

■ 10:15 集合 新倉敷駅北口 観光バス停車所
■ 13:30 解散予定 新倉敷駅
参加料 12,000円
(見学科・タクシー代・子元のお弁当代・茶席代込)

8名募集

▼ 11月23日(日) F G

F
コース
約2.5km

5茶室見学
(松風・樽の茶席・林月亭・仙風閣・招流閣)

岡田家 — 浅沼家 — 西爽亭
— お茶事の店和佳(懐石と薄茶)

■ 09:30 集合 遊美工房
■ 14:30 解散予定 遊美工房
参加料 13,000円(見学科・お茶事代込)
*Fコースのみ11月16日(日)で申込を締め切ります。

5名募集

G
コース
約3km

4茶室見学(林月亭・仙風閣・招流閣・滄浪亭)

浅沼家 — 西爽亭 — 佐藤家
— 器楽堂老舗(茶席)

■ 09:30 集合 遊美工房
■ 13:00 解散予定 遊美工房
参加料 4,000円(見学科・茶席代込)

5名募集

岡田家

A B C D F

◆ 松風 ― 四畳半茶室 ―

建築年代は昭和 35 年～ 40 年頃。表千家流のお茶をされていた歯科医院の院長ご夫妻によって建てられた。建物全体の設計、施工は藤木工務店、茶室部分は裏千家関与の大工、造園は旧金光町の庭師清水氏によるもの。金光、玉島の数寄者たちが、しばしば一緒に茶を楽しんだという。

◆ 樽の茶室

建築年代は松風と同じ頃か？直径およそ一尋(約 1.5m)の大樽の上に傘を載せたような屋根を持つ茶室。京都伏見の酒造会社「月桂冠」の酒樽と広島県庄原市にある「菊精」の酒樽とが使われた。「菊精」の酒樽を寝かせた 2 棟の待合もある。遊び心満点の茶室である。

岡田家

県立玉島高校

A B D

玉芳亭 ― 四畳半茶室 ―

砂糖商であった吉川芳一郎氏が建築材料一式を玉島高等女学校に寄付して昭和 10 年に竣工。京都藪内家出入りの数寄屋棟梁の手により建てられた。席名は、玉島の「玉」と吉川氏の「芳」を取って「玉芳亭」と付けられたという。竣工当時は藪内流茶道を主導的に牽引していた高運寺住職塩田江雲、息子の光雲が生徒を指導。現在も藪内流の茶道が伝えられている。

県立玉島高校

浅沼家

A B D F G

「林月亭」 ― 八畳書院茶室 ―

文久元年(1861)頃、肥料問屋豊後屋の林莊兵衛により建てられた八畳書院茶室で、昭和初め頃に造り酒屋を営んでいた浅沼貞さんの所有となり、「林月亭」と命名。茶道以外にも和歌の会、煎茶の会、書道教室等文芸を中心に多方面の活動の場として使われていた。現在は、表千家流の茶を指導する場として使用されている。

浅沼家

安藤家

C

― 九畳書院茶室 ―

明治16年以降に建築した商家の主屋。その中の座敷に炉が切られている。取次の間から、書院にかけての諸室にも、かつて炉が切られていた。九畳の構成基調は書院様式だが、漆塗、色付、唐木などの使用に数寄屋風を感じさせる。

安藤家

円通寺

C

◆ 石窓庵 ― 二畳台目向板席 ―

建築年代は近代か。(ただし江戸後期に「石窓庵」と号す19世寛厳心梁が住職にいた)内部全体に藪内流の構成意匠を示す。巨岩の上が露地になっているのが魅力。石窓庵の雪見障子の窓から、文字どおり石の露地を味わうことができる。

◆ 友松亭 中国風茶室

現タテソース大豊島屋の社長大野豊氏の曾祖父である大野友松氏が、中国に渡った際に当地で買い求めた建物を移築寄進した建物。ほぼ方丈の広さを持つ仏堂風の建物で、屋根は本瓦葺きの宝形造り、軒の隅の部分の反りが比較的強いので、中国風の好みを表した外観になっている。

円通寺

備後屋

C

霧晴庵 ― 四畳半席 ―

建築年代は戦後まもなく。斜面に離れが点在する旅館の棟。貴人口や多くの窓をあけるが、眺望は求めず、落ち着いた席になっている。茶道口や、外部の刀掛などに藪内流の手法を見る。



備後屋

佐藤家

C G

滄浪亭 ― 四畳半席 ―

建築年代は百年ほどまえと伝える(大正期?)。床は点前座側にある、いわゆる亭主床。卍組の格天井の網代張り、円窓の割竹の装飾、茶道口の竹の方立など、竹の多用が特徴。かつて、茶道口と対角の位置に躡口があいていた。砂の一粒まで京都から船で運んで、京都の大工によって建てられたという。



佐藤家

瀬崎家

E

瀬崎家は、住宅、茶室等を含め、令和7年3月に国の登録有形文化財に指定された。



瀬崎家

◆ 松籟楼

建築年代は昭和初期。離れの茶室で、塀で囲った独立の露地をもつ。七畳出床、本勝手広間切の席で、床脇の一畳に三角形の地袋をそなえる。室内の半分が葎の化粧屋根裏となった瀟洒な茶室。水屋六畳との境の襖障子の壁も面白い造り。

◆ 如是庵

建築年代は、昭和2年。茅葺屋根で、丸畳1枚に台目畳2枚と中板を組み合わせたユニークな間取りの茶室。中板、逆勝手向切の炉、中柱、これに付く袖壁などの組み合わせによって点前座が茶立所のように見え、客に対する謙譲の意を表わした茶室になっている。

西爽亭

F G

◆ 仙風閣 ― 二畳台目中板席 ―

◆ 招流閣 ― 台目二畳 ―

建築年代は明治初年頃か。台目二畳の煎茶席が隣席し、外観全体は瀟洒な二棟構成を示す。御成書院の点景として不可欠な存在。御成書院、御成門は天明年間(1781～ 89)の建立と伝える。旧柚木家住宅である西爽亭は、平成12年に国の登録有形文化財に指定された。



西爽亭

器楽堂老舗

A B C D G

良質な茶道具をそろえる江戸末期創業の茶道具店。店の奥にある茶室で毎週日曜日お茶会が開かれています。



備中玉島湊鐵屋 わたしのお茶事 和佳

F

お茶文化の根付く街「玉島」において、テーブルと椅子による「令和のスタイル」で、お茶事を体験してみませんか。主に、玉島地域で生産された農産物等を食材とした献立で提供します。
watasinoochyaji-waka.jimdosite.com